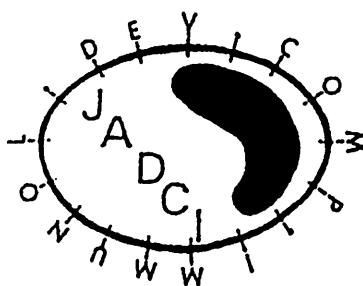


J A D C I News

NO. 5

1992. 3. 10



The Japanese Association
for Developmental and
Comparative Immunology

Office: Department of Anatomy, Dokkyo
University School of Medicine, Mibu,
Tochigi 321-02

アメフラシはナメクジには弱い

帝京大学薬学部薬品科学教室

山崎正利

元来文章を書くのは大嫌い。"個体発生的"にみても幼稚園の絵日記に始まり、高校時代の文集作りに至るまで物書きはいやでいやでしかたなかった。だから大学は理科。今も大嫌い。申請書、報告書のたぐいも全て大嫌い。ラブレターしかり。しかし研究上の論文や依頼原稿はやむを得ず書くが、それ以外の"随筆"は原則として全てことわってきた。大方はagreeしてくれるが、今回は大違い。Yesといわぬうちから「ファックスが入ったから」とか「明日までとか」一気に外堀も内堀も埋められていく。こうなるとファックスも罪作りの不便な機械としかいいようがない。ナメクジ先生ににらまれたらおしまい。粘液でべっとり金縛り。そう、同じ軟体動物でも私の研究材料アメフラシはナメクジには弱いのです。と前置きが長くなったが、物書きの嫌いな小生に古田先生から原稿依頼がきてしまったのです。

さて何をかくそう、私には3大欠陥があるのです。その1：文章を書くのが大嫌い。その2：化学構造式を覚えられない（学生には内緒）。その3：人の顔を覚えられない（wifeには内緒）。おかげでこれまでの"個体発生期間"で損することはあっても、得たことはない。2.3は省略するとして、その1について恥ずかしい話を2つ。とにかく文章、すなわち論文も書くのが嫌いな故、なるべく速やかに書いて（これは強調しておく）、あとはアッケラカンと忘れてしまうという天性の持ち主。アバウトなO型人間。

さて某月某日。current contentsをみていたら、自分の研究に近い、大変興味深い、素晴らしい（と思える）論文を発見した。別刷を請求すべく葉書にタイトル等を記入し、宛名を書こうとして愕然。自分の論文だったのである！

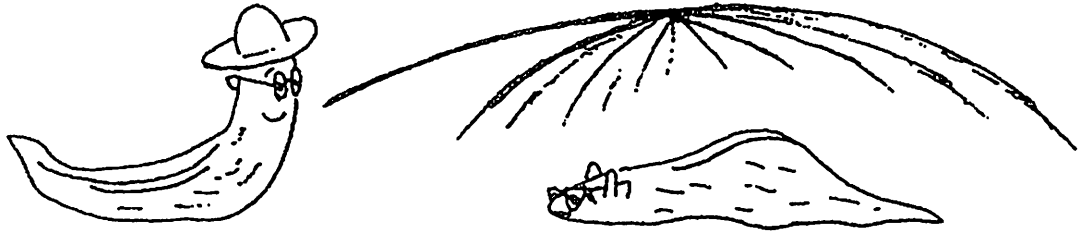
某月某日。東北のK先生より、共著の論文をまとめるべく電話。

小生がまとめて書くことにして数日後。丁度DCIが届き、パラパラと見ていたら、まとめるべく話をした内容が既に論文になっているではないか！K先生と山崎がしっかり著者としてプリントされて！2人共1年前に投稿した論文を完璧に忘れていたのである。これはもう私だけでなくK先生も同罪。それに投稿から印刷まで遅いDCIも同罪。もう書きちゃいましょう。K先生とは北里大学水産学部の神谷先生なのです。

ところで日本のJADCI年会には、前年のを忘れて同じ演題を出すことはありません。念の為。なぜなら当研究室のK女史がかならずチェックしてくれます。でも少々心配な点がないわけではない。ついでに書きます。付録の話。先の”事件”から時は流れて1年余り。K女史が、先の内容でまだ論文がまとまっていない、といったので、”身に覚え”のある小生は、自信をもってそれはK女史や神谷先生と一緒に既に論文にしたことを伝えた。K女史は、自分の机の中からくだんの論文別刷を捜し出し、自分の名前を再確認し絶句！過去にこだわらず”来”世に”生”きるK女史（実は来生 キスギ といいます）ならではのことです。どうも私の回りには自分の論文も忘れてしまうアバウト人間が集まっているようである。

最近マクロファージとリポ蛋白関連の研究（宣伝：油井先生を中心にこういう仕事もやっています。）をまとめるため論文を書いたが、リポ蛋白をいただいた共著者の熊大の某先生（比較免疫学会とは無関係のため匿名）の論文に対する情熱のすさまじさには圧倒された。何しろ推稿、推稿の連続。文章を書くことが大好きで、大変楽しんでいるように思える執念。物書きの大嫌いな小生は、ほんとに論文を”投げ出し”たくなっただけで、早くそういう状態から”脱出”したかった。”投稿”とはよくいったものである。”脱稿”も至言なり。自分の論文に誤りがないように責任をもてば、当然慎重にならざるを得ない。でも間違えていたら、また訂正論文を出せばいいさ。論文数も2倍になるしと、嘘ぶくアバウトなO型人間である。というわけで、

物書きの大嫌いな小生の雑文を終了します。古田先生許してもらえますか？やっと投稿できた！脱稿だ！



NHK. 生きている言葉：アメフラシはナメクジには弱い

罪造りな新FAX番号をお知らせ致します。どうぞご利用ください。

0282-86-1463

(独協医科大学第2解剖学教室・JADCI事務局直通)

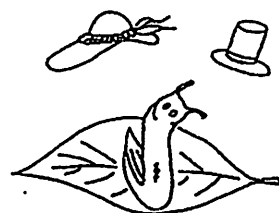
バトンタッチ

古田恵美子

獨協医大・Ⅱ解

日本動物学会のサテライトシンポジウムであった「比較免疫学シンポジウム」を、誰でも参加しやすいように独立させましょうということで、このシンポジウムのメンバーが集まって、「研究会」を発足させました。1989年のことでした。早いもので、もう4年目となります。1988年1月に、友永先生の主催で開かれた、宇部の国際シンポジウムに参加させていただきましたのが、そもそものきっかけで、とうとう事務局まで引き受けるハメになってしまいました。幸いにして、シンポジウムから引きつづいて、入会していただいたメンバーが中心となり、会長に京都大学の村松繁先生をおむかえして、“無から有”を引き出すような努力で、第1回目の学術集会を、平成元年11月28日、29日に開催するまでにこぎつけることが出来ました。演題数は29、招待講演はDr. E. L. Cooperでした。第2回目、第3回目と、学術集会は次第に大きくなり、また本当に楽しく、活発な会となって参りました。特に、1991年の第3回学術集会は、3日間にわたって行われ、外国人研究者の特別講演7題も加わって、まるで国際学会のような雰囲気でした。しかし、それはそれで、世話人としては名誉なことであり、本当に嬉しく、よろこぶべき事ではありましたが、少々お金集めにノビてきておりました。今年（第4回目）からは、大会委員長を、別に置くことに決定していただいたおかげで、今はお金集めに走りまわることもなく、心安らかな日々で御座居ます。しばらくは、あの悪夢（リレー競技でバトンを渡す相手が、突然消えた）でウナサレルこともなく済みそうに御座居ます。バトンは、山口大学の友永進先生に、しっかりと受け取っていただきました。やっどバトンタッチが出来ました。

Which shall I take ?



日本比較免疫学会第4回学術集会
(第1報)

第4回学術集会が、下記の通り開催されます。これからの予定、開催地のパンフレット等を合せてお送り致します。多数のご参加をお待ち致しております。

記

期 日：1992年8月26日、27日、28日

場 所：秋芳台グランドホテル（パンフレット参照）

参加費：3,000円

宿泊費：約20,000円（2泊3日；懇親会費、食事代込み）

これからの予定

- * 参加・演題申込み：別紙に記入の上、4月30日までに事務局宛てにご返送下さい。
- * 講演要旨（和文）：演題申込みをされた方には、原稿用紙をお送りいたしますので、6月10日までに、ご返送下さい
- * Proceedings 発送：7月下旬

第4回学術集会の日程（予定）

8月26日	受付	5:00pm～
	役員会	5:00～6:00pm
	夕食・入浴	6:00～7:30pm
	特別講演	7:30～8:30pm
	総会	8:30～9:00pm
8月27日	一般講演	午前・午後
	シンポジウム	
	又は特別講演	4:00～6:00pm
	懇親会	7:00～9:00pm
8月28日	一般講演	午前
	終了	12:00

送迎バスについて

宇部空港～ホテル間の送迎バスの運行を現在検討中です。
(東京～宇部間、JAS:一日5便運航)

会長選挙の開票結果および役員の方々の決定についてのお知らせ

先の会長選挙(1991.12.20.締切り)については、12月27日に開票を行い(立会人:古田恵美子;独協医大,菊池慎一;千葉大,田中邦男;日大,和合治久;埼玉医大,山崎正利;帝京大)、その結果下記の通り、村松繁氏に決定いたしました。

また、役員は新会長の委嘱により、次の方々をお願いすることになりました。

記

会長選挙・投票結果

村松 繁	54票
友永 進	8票
古田恵美子	3票
渡辺 浩	2票
E. L. Cooper	1票
黒沢 良和	1票
楠田 理一	1票
名取 俊二	1票
野本亀久雄	1票
田中 邦男	1票
和合 治久	1票

投票総数 74票

会長および役員

会長	村松 繁
副会長	友永 進
庶務・会計	古田恵美子
(補助役員)	小林 睦生
	中村 弘明
	山口恵一郎
プログラム委員	山崎 正利
	和合 治久
抄録委員	田中 邦男
会計監査	野本亀久雄
	渡辺 浩

(任期:1992.4.1.~1994.3.31)

* 柘内先生、ありがとうございました。